

(その94) 2年、初めて理解し合える人たちに会いました (2013.7)

5月9日、川崎区中島に住むNさんが相談センターに来ました。2年間悩んでいろんなところに相談に行ったが、どこも自分のことを理解してくれなかった。電話帳で相談センターを見つけたとの事。

悩みはアパートの部屋の4ヵ所に大きな窓があり冬になると寒くて困るので北側の窓を壁でふさいでとお願いしたら自分でお金を出してやりなさいと言われ、天井の隙間をふさぐことと、雨漏りのシミを修理してと頼んでも自分でやりなさい、転居したいと言うと「生活保護を受けているのに贅沢言うな、我慢しろ」といわれたことが納得できない。

やっと理解してもらえた

どう思いますかと聞かれ「生保だから我慢しろとの言い分は賛成できない、あなたの方が正しい」と答えると初めて理解してくれる人に出会えたと涙を流し、いろんな所へ相談に行った時の相手の対応を話して下さいました。

5月末で今のアパートが契約更新となるので何とか転居できないかと再度相談に見えました。

所長と一緒に福祉事務所へ行って「今後トラブルが頻発する心配があり、知り合いで敷金も権利金もいないという大家さんがいるが紹介するので転居を認められないか」と頼んだところケースワーカーの人もトラブルの心配を共有してくれて、係長も交えて話しあい転居が認められました。

Nさんはこれまで自分は反共主義で、みなさんの党に相談することは全く考えた事也没有ませんでした。

困ったあげくに相談してみると、自分と同じ考えだったことを経験しました。

これからは、偏見なく素直にもものを見るように努力し、残りの人生を生きてゆきます。 Nさんのこの言葉はどんなお礼よりも私たちに励ましてくれるものでした。